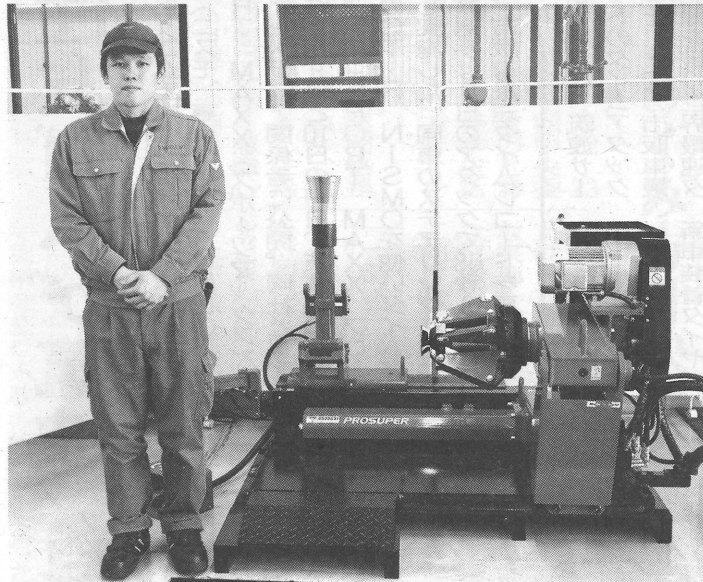


# 整備機器

## 新商品

### 小野谷機工(株)

#### TB・LT用タイヤチェンジャー 「プロスーパー PSP-120」



大型タイヤの交換作業を行う現場では今、シビアな課題に直面している。タイヤ整備機器の国産メーカー、小野谷機工(株)(福井県越前市)はその解決を目指し、さまざまな角度からアプローチし機器の開発に取り組む。

現場で直面する課題の具体的事例をあげると、

(1)「身体にかかる負担」——ホイール付きタイヤの重さが作業者の肉体に与える影響は大きい。「慣れ」として重量感が気にならなくなるケースもなかにはあるかもしれないが、慢性的な疲労が蓄積される。中腰にがんで作業をする、立つしゃがむという動作を繰り返すことで腰や

# 「スライドベース」を新採用

膝、肩の痛みの原因と

ンプレッサーを使うケースが多い。作業場ではそれらが恒常的に振動や騒音を発する。作業スペースに限りがあるので、機器を扱う際にエアホースや電源コードの取り回しに気が配る必要があり、作業性に影響が及ぶ。

(2)「人手不足」——技能の経年値により作業品質に大きな差が生じる。マンパワー頼みとなるので、作業効率

が優先される。ベテランから技能を引き継ぐ若手人材が不足し、技能伝承に関する意欲も低い傾向にある。女性や外国人の技能実習生、シルバー人材を積極的に活用する意欲も

これらは国交省が取り組む「自動車整備要員の確保・育成に

# ダブルアクシオン機構で速度アップ

極採用するなどの取り組みがみられるが、普及しやすい環境づくりのためには至っておらず、現場の高齢化に歯止めはかかっていない。

(3)「作業環境」——作業で機器を使用するために発電機や空気コンプレッサーを使う場合、

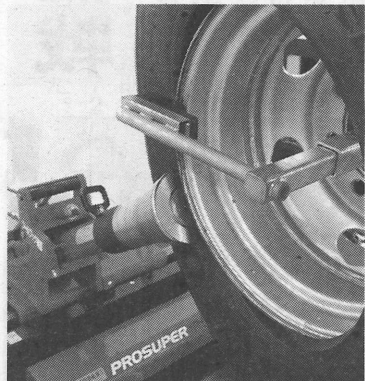
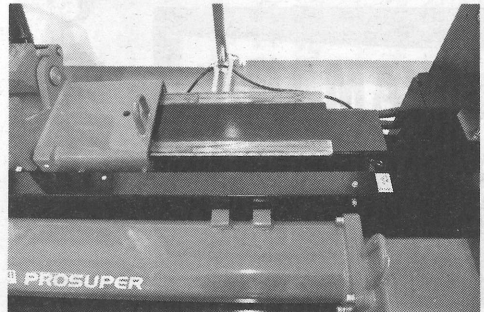
このふたつが、スイッチボタンひとつの操作で同時に、相互に移動する「ダブルアクシオン」機構を搭載したのが「プロスーパー」シリーズの特徴。

小野谷機工が新発売したTB・LT用タイヤチェンジャー「PROSUPER」(プロスーパー) PSP-120は、前記の「軽劣化」

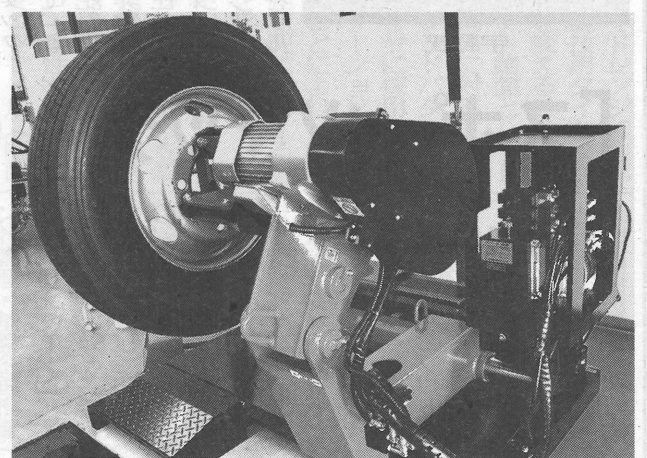
「ダブルアクシオン」機構をよりグレードアップすることで、大型タイヤの脱着作業がひとりで、楽に、スピーディーにできるようになった。省スペース化を実現し、作業環境の向上も果たしている」と、漆崎さんはその性能に強い自信を示す。

「省人化」作業に最も適したと説明する。ロードサービスカーにも搭載可能な

「スライドベース」を新たに採用したことを施したという。ス



「写真上から、本機と漆崎さん、グレードアップした「ダブルアクシオン」のツール部操作性の高いコントロールボックス、ピードローラーとマウントヘルパー、右はホイールをつかむツール部」



る電力量を低減した。また、これは作動油についても温度の上昇を抑えることに寄与し、劣化の抑制に効果を発揮するといふ。

ピードローラーはテシジョンのかかるピード部に無理な負担をかける最悪な形状を採用。チュープレスタイヤの脱着を確実に安全に行うことができる。

マウントヘルパー「楽なバー」を使用することで、タイヤの組み込み作業を大幅に軽劣化した。

「グレードアップ」をはじめ「アーム高速スライド」「スイングアーム式操作リモコン」「タイヤ回転2スピード仕様」各種の「ホイール保護リング」などのオプション品を用意した。

「作業者に負担のかかる大型チュープレスタイヤの脱着作業がひとりで、楽に、スピーディーにできるようになった。省スペース化を実現し、作業環境の向上も果たしている」と、漆崎さんはその性能に強い自信を示す。

脱着に最適だ」と説明する。ロードサービスカーにも搭載可能な「スライドベース」を新たに採用したことを施したという。ス